

寄付者による投票で
支援額が決まる

バードリサーチ

調査研究支援プロジェクト

あなたの1票を、調査研究の推進力に！



1. 選ぶ

バードリサーチが募集し、一次選考によって選んだ最大9件+バードリサーチからの1件の調査・研究プランの中から、応援したいプランを選んでください。

2. 寄付

個人一口
3,000円

*何口でもOKです。

3. 投票

1口の寄付に対して1票をお預けします。寄付が複数口の場合、ひとつのプランに何票投票しても構いませんし、複数のプランに投票することもできます。投票先を指定しない寄付も大歓迎です。

●寄付&投票するには...



a. クレジットカードで寄付を送る場合

下記のホームページをご覧ください。

http://www.bird-research.jp/1_event/aid/kifu.html



b. 銀行または郵便局から寄付を送る場合

Step 1. メールまたはFaxを送る。

下記の担当宛てにメールかFaxで次の項目を伝えてください。

- ・お名前とご住所
- ・メールアドレス
- ・寄付口数
- ・支援する調査・研究プラン
(寄付が複数口の場合は、プランごとの票数)
- ・あなたのお名前を支援先に伝えて良いかどうか

バードリサーチ調査研究支援プロジェクト担当

姜 雅珺

E-mail: br@bird-research.jp

Fax: 042-505-4044

Step 2. お金を振り込む。

下記のいずれかの口座に合計額を振り込んでください。
(振り込み手数料はご負担ください。)

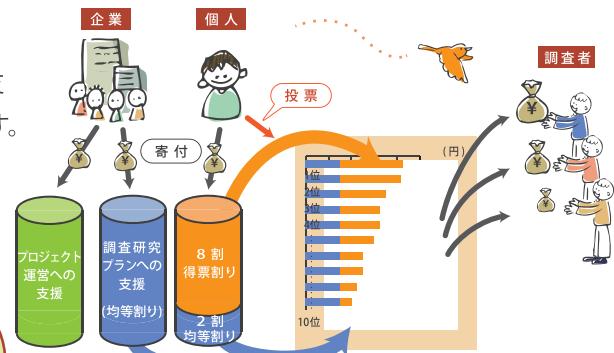
●PayPay銀行（銀行番号 0033）
本店営業部（支店番号 001）
普通 8148578
名義：トクヒ）バードリサーチ

●郵便振替口座
記号番号：00150-9-685654
名義：特定非営利活動法人 バードリサーチ

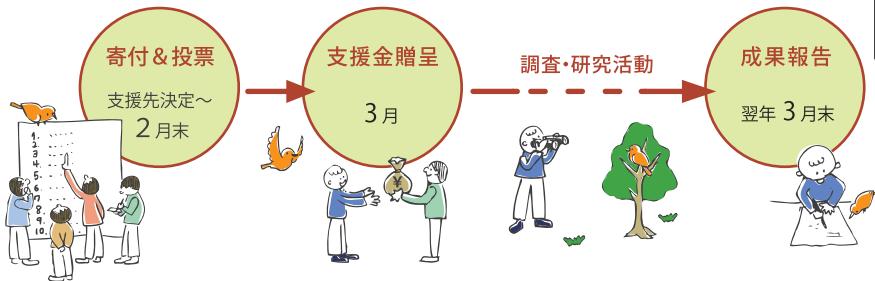
●郵便貯金（ぱるる口座）
記号番号：10120-49233551
名義：特定非営利活動法人 バードリサーチ

●支援額の決定方法

集まった寄付のうち、2割を支援先に均等に分配し、8割を得票数に応じて支援先に分配します。また、企業からいただいた寄付は支援先に均等に分配します。
1件のプランへの支援額は、1万円～50万円程度を想定しています。



●スケジュール



2025年度 支援先調査研究プランのご紹介

2025年9月～10月に支援先となる調査研究プランの募集を行ない、21件のプランが集まりました。その中から支援先を決定するため、金井裕日本野鳥の会参与、嶋田哲郎宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団研究室長、出口智広兵庫県立大学准教授、水田拓山階鳥類研究所自然誌・保全研究ディレクター、高木憲太郎バードリサーチ代表の5名で一次審査を行ない9件の支援先を選定しました。バードリサーチからの1件を含め、10件の調査研究プランの概要をご紹介します。詳細はホームページにPDFで掲載しています。

岩手県焼石岳連峰におけるクマゲラ生息調査

籠島恵介（本州産クマゲラ研究会）

本研究は岩手県焼石岳連峰において、クマゲラの繁殖確認を目的に生息調査を行います。本州のクマゲラ個体群はブナ林への依存性高く、北海道との交流が無いとされています。焼石岳連峰では15か所の巣穴が確認されていて、この場所で繁殖が確認できれば分布の南限が拡がっている証拠になります。クマゲラ識別専用AIの開発と録音装置の設置、巣穴調査およびコールバック調査を実施し、繁殖の有無を調査します。

僕を探して…！



みんなで探そう！コムクドリ渡りプロジェクト2026

大泉龍太郎（北海道大学大学院理学院博士後期課程）

北海道および北東北で繁殖するコムクドリを対象に、渡り開始時期と渡りルートの地域差を明らかにすることを目的としています。近年、本州中部では7月上旬に渡りを開始する個体が多数確認され、従来の9月移動説と異なる傾向が見られています。本研究ではGPSを装着して追跡することで、地域差の要因と個体群構造の解明を目指します。

みんなで夜のフライトコール(NFC)録音調査（最終年度）

大坂英樹（トリルラボ）

本プロジェクトは、全国の参加者と協力して夜間フライトコール(NFC)を録音し、日本における渡り鳥の夜間飛翔の基礎情報を整備することを目的としています。19地点6,500時間の録音をクラウドに集約し、自動抽出と可視化を進めるとともに、長期設置型録音システムの試作による持続的調査体制の構築を目指します。

鳥類の情動を伝える鳴き声の音響構造は収束するか？

全球規模での音声解析による検証

一色聖也（千葉大学理学部）・村上正志（千葉大学大学院理学研究院）

鳥類が怒りや恐怖などの情動を伝える鳴き声が、種を超えて共通する音響構造を持っているのかを、全球規模で検証します。本研究では音声データベースで公開されている約1000種の音源を用い、情動を伝える鳴き声のひとつであるAlarm callが、情動を伝えないFlight callと比べて種間で似ているか、また、大陸や地域集団ごとに方言のようなものがあるか分析します。この研究により、鳥が気持ちを伝えるときに、種を超えて共通する音響構造の仕組みを明らかにすることを目指します。

自動撮影カメラで探る！道路を利用する沖縄島北部の鳥たち

丸田裕介（琉球大学大学院農学研究科）

本研究は、沖縄島北部「やんばる」において、道路環境を利用する野生鳥類の種構成と日周活動性を明らかにすることを目的としています。道路に向けて自動撮影カメラを設置し、撮影データから出現鳥類の種類と活動時間帯、季節変動を定量化します。また、深層学習モデルYOLOを用いた動物検出技術の応用可能性を検証し、大量データ処理の効率化を図ります。道路を利用する鳥類の実態解明と今後の調査基盤構築への貢献が期待されます。



岩手県焼石岳連峰におけるクマゲラ生息調査

籠島恵介（本州産クマゲラ研究会）

本研究は岩手県焼石岳連峰において、クマゲラの繁殖確認を目的に生息調査を行います。本州のクマゲラ個体群はブナ林への依存性高く、北海道との交流が無いとされています。焼石岳連峰では15か所の巣穴が確認されていて、この場所で繁殖が確認できれば分布の南限が拡がっている証拠になります。クマゲラ識別専用AIの開発と録音装置の設置、巣穴調査およびコールバック調査を実施し、繁殖の有無を調査します。



みんなで探そう！コムクドリ渡りプロジェクト2026

大泉龍太郎（北海道大学大学院理学院博士後期課程）

北海道および北東北で繁殖するコムクドリを対象に、渡り開始時期と渡りルートの地域差を明らかにすることを目的としています。近年、本州中部では7月上旬に渡りを開始する個体が多数確認され、従来の9月移動説と異なる傾向が見られています。本研究ではGPSを装着して追跡することで、地域差の要因と個体群構造の解明を目指します。



みんなで夜のフライトコール(NFC)録音調査（最終年度）

大坂英樹（トリルラボ）

本プロジェクトは、全国の参加者と協力して夜間フライトコール(NFC)を録音し、日本における渡り鳥の夜間飛翔の基礎情報を整備することを目的としています。19地点6,500時間の録音をクラウドに集約し、自動抽出と可視化を進めるとともに、長期設置型録音システムの試作による持続的調査体制の構築を目指します。

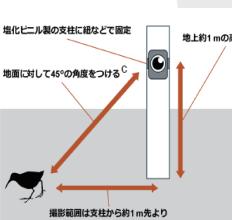


鳥類の情動を伝える鳴き声の音響構造は収束するか？

全球規模での音声解析による検証

一色聖也（千葉大学理学部）・村上正志（千葉大学大学院理学研究院）

鳥類が怒りや恐怖などの情動を伝える鳴き声が、種を超えて共通する音響構造を持っているのかを、全球規模で検証します。本研究では音声データベースで公開されている約1000種の音源を用い、情動を伝える鳴き声のひとつであるAlarm callが、情動を伝えないFlight callと比べて種間で似ているか、また、大陸や地域集団ごとに方言のようなものがあるか分析します。この研究により、鳥が気持ちを伝えるときに、種を超えて共通する音響構造の仕組みを明らかにすることを目指します。



自動撮影カメラで探る！道路を利用する沖縄島北部の鳥たち

丸田裕介（琉球大学大学院農学研究科）

本研究は、沖縄島北部「やんばる」において、道路環境を利用する野生鳥類の種構成と日周活動性を明らかにすることを目的としています。道路に向けて自動撮影カメラを設置し、撮影データから出現鳥類の種類と活動時間帯、季節変動を定量化します。また、深層学習モデルYOLOを用いた動物検出技術の応用可能性を検証し、大量データ処理の効率化を図ります。道路を利用する鳥類の実態解明と今後の調査基盤構築への貢献が期待されます。

謎の鳥？ダイトウカイツブリを追え！ －隔離島嶼のカイツブリの形態は進化しているのか？－

池上隆之・堀内晴・坂井充・中田知伸（北海道大学大学院理学院）

南大東島に生息するダイトウカイツブリについて、本州産個体との形態および行動の違いを明らかにすることを目的とした研究です。形態計測と潜水行動の観察を行い、嘴長や潜水能力の差異を比較することで、隔離島嶼環境における適応進化の可能性を検証します。

どこまでが基亜種ツミ？どこからがリュウキュウツミ？

内藤アンネグレート素（京都市動物園）・戸部有紗（京都大学野生動物研究センター）・嵩原建二（沖縄県）・飯沼慶一（学習院大学）・宮城邦治（沖縄国際大学）・中本純市（カンムリワシ・リサーチ）

南西諸島で繁殖するツミ類について、奄美から八重山にかけて分布と繁殖状況を調査し、基亜種ツミと絶滅危惧IB類リュウキュウツミの遺伝的境界を明らかにする研究です。形態のみでは識別が困難であるため、繁殖地で採血と体部計測を行い、全ゲノム解析によって集団構造と地域間の遺伝的距離、遺伝的多様性を評価します。フィールド調査とゲノム情報を合わせて、保全計画の科学的根拠となる生息域区分を提示することを目指します。

得意なモノマネなんですか？ガビチョウのさえずりを模倣から追究する！

長谷川れい・北村亘（東京都市大学環境学部）



本研究は、他種のさえずりを模倣するガビチョウに着目し、模倣がどのような過程で学習されるのかを明らかにします。川崎市で録音した10個体53ソングの解析から、音節数やレパートリーに大きな個体差が存在し、模倣度にも違いがあることがわかっています。そこで、新たにガビチョウが侵入した地域とすでに定着している地域で比較録音を行い、模倣音声の類似性と出現頻度の関係を明らかにします。

サシバが繁殖しやすい環境とは? －巣立ち雛数・占有頻度に関わる環境要因について－

高橋京太郎（新潟大学農学部）

絶滅危惧種であるサシバの繁殖成功に影響する環境要因を明らかにするため、個体の有無・採食行動・繁殖状況・巣立ち雛数・占有頻度の5指標から総合的に解析します。予備調査では、餌資源であるカエルの個体数が増えるほどサシバの出現頻度が高まる有意な関係が確認されています。データを拡充し、繁殖に重要な地域を可視化することで、保全すべき優先区域を科学的根拠に基づいて提示することを目指しています。

カワウの巣の昆虫調査

バードリサーチ

カワウが集団営巣するコロニーは、糞や吐き戻し、死骸などの鳥由来有機物が豊富で、多様な昆虫の重要な生息地となっている可能性があります。本研究では、東日本の複数のコロニーで昆虫捕獲調査と巣の属性データを収集し、コロニーの有無や規模、巣巣履歴が昆虫の多様性や希少種の生息に与える影響を定量的に評価します。昆虫多様度の高いコロニーの特徴を明らかにし、見落とされてきた鳥類コロニーの生態学的価値を示すことを目的とします。



バードリサーチ 調査研究支援プロジェクト

https://www.bird-research.jp/1_event/aid/kifu.html



バードリサーチ 調査研究支援プロジェクト



支援意思表示 Fax 連絡票

お名前： [] ご住所： []

E-mail： [] 支援先にあなたのお名前を伝えたくない
場合は右の□にチェックしてください

001 岩手県焼石岳連峰におけるクマゲラ生息調査
籠島恵介（本州産クマゲラ研究会） [] 票

002 みんなで探そう！コムクドリ渡りプロジェクト2026
大泉龍太郎（北海道大学大学院理学院博士後期課程） [] 票

003 みんなで夜のライトコール(NFC)録音調査（最終年度）
大坂英樹（トリルラボ） [] 票

004 鳥類の情動を伝える鳴き声の音響構造は収束するか？
全球規模での音声解析による検証
一色聖也（千葉大学理学部）・村上正志（千葉大学大学院理学研究院） [] 票

005 自動撮影カメラで探る!道路を利用する沖縄島北部の鳥たち
丸田裕介（琉球大学大学院農学研究科） [] 票

006 謎の鳥? ダイトウカイツブリを追え!
一隔離島嶼のカイツブリの形態は進化しているのか?—
池上隆之・堀内晴・坂井充・中田知伸（北海道大学大学院理学院） [] 票

007 どこまでが基亜種ツミ？どこからがリュウキュウツミ？
内藤アンネグレート素（京都市動物園）・戸部有紗（京都大学野生動物研究センター）・
嵩原建二（沖縄県）・飯沼慶一（学習院大学）・宮城邦治（沖縄国際大学）・
中本純市（カンムリワシ・リサーチ） [] 票

008 得意なモノマネなんですか？ ガビチョウのさえずりを模倣から追究する！
長谷川れい・北村亘（東京都市大学環境学部） [] 票

009 サシバが繁殖しやすい環境とは?
一巣立ち雛数・占有頻度に関わる環境要因について—
高橋京太郎（新潟大学農学部） [] 票

010 カワウの巣の昆虫調査
バードリサーチ [] 票

■支援先を決めずに寄付する [] 票

銀行または郵便局から寄付を送ってくださる場合は、メールの代わりに、この用紙を使って Fax でご連絡いただくこともできます。
Fax 後に銀行または郵便局の指定口座に、合計額を振り込んでください。

1票=1口 3000円 × 合計 [] 票

= 寄付額合計 [] 円



送付・連絡先

バードリサーチ調査研究支援プロジェクト担当 姜 雅珺

E-mail br@bird-research.jp

Fax 042-505-4044